

福島赤十字病院と合同カンファレンスを開催しました

北福島医療センター・回復期リハビリテーション病棟では、地域連携パスを使って急性期病院より患者様の受入れをしております。地域連携パスとは、急性期病院から回復期病院を経て早期に自宅に戻れるような診療計画を作成し、治療を受けるすべての医療機関で共有して用いるものです。

回復期病院では患者様がどのような状態で転院してくるかを把握できるため、改めて状態を観察することなく、転院早々から患者様に合ったリハビリを始めることができます。

連携をとっている病院とは年に1、2回の合同カンファレンスを行い、リハビリテーションの成果などについて情報を共有し、患者様の受入れに役立てております。

8月25日には、連携先の一つである福島赤十字病院の脳神経外科・渡部洋一院長をはじめ、看護師、リハビリテーションスタッフ、医療連携室・相談員等30名の皆様と、当院からは、リハビリテーション科部長・大槻剛智医師、大平葉子医師、血液内科・木村秀夫院長、神経内科・宗像玲子医師、病棟看護師、リハビリテーションスタッフ、医療連携室・相談員等57名の参加者があり、脳卒中関連の合同カンファレンスを開催しました。

カンファレンスでは、これまで転院された患者様の2症例について、転院前の状況を担当された神経内科・中村耕一郎先生、脳神経外科・鈴木恭一先生よりご説明いただき、転院後の経過について当院の医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、栄養士、相談員より報告がありました。

福島赤十字病院・脳神経外科の市川剛先生より、「難しい症例ではあったがこんなに回復されたことに驚き、リハビリテーションの大切さを実感した」とお話しいただきました。

これからもスタッフ一丸となって、関係医療機関と連携を図りながら、患者様の自立やADL(日常生活動作)の向上、自宅復帰や社会復帰を目指し支援していきたいと思っております。

参加者の感想

「患者様の転院する前の状況やお話を聞くことができ、より理解が深まった。」
「転院する前とした後の情報を交換することでお互いの信頼関係が生まれ、今後の連携にも活かせると感じた。」
「ほとんど動くことができなかった患者様が、リハビリをすることによってこんなに動けるようになるのだと感動した。」



CONTENTS



ほぼらサマーフェスティバルに参加しました

合同カンファレンス開催	1
地域けんこう講座	2
小学生病院見学	3
気管挿管病院実習修了式	3
人間ドック健診情報管理指導士より	3
栄養科だより	4

第90回地域けんこう講座のご案内

「変える運動、変わる身体」

～ 正しい運動と間違った運動とは? ～

人は、加齢とともに身体活動が低下していき、日々の運動が大切と言われていますが、どのような運動が良いのかお分かりですか？平均寿命が延び、高齢者人口が増加する中、いかに自立した生活を送れる体力を保っていくかが誰しもの願いです。今回は、そんな自分の身体を考え、変えるキッカケになる運動をお教え致します。



- 日 時:平成28年9月17日(土)午後2時～午後3時頃まで
- 場 所:北福島医療センター 1階オーチャードホール
- 講 師:北福島医療センター リハビリテーション科
理学療法士 大戸明文
- 参加費:無料

当日は、13:30と13:50に保原中央クリニックよりシャトルバスが運行されます。どうぞご利用ください。(なお、講座終了後も北福島医療センターより運行されます。)

★ 主催:北福島医療センター(問合せ:TEL 551-0551)

★ 後援:伊達市

第5回作業療法作品展を開催致しました

8月30日(火)～9月5日(月)に第5回作業療法作品展をオーチャードホールにて開催致しました。日頃、患者さんがリハビリ目的で作成した数々の作品が展示され、患者様や付添の方など沢山の方々に手作りの作品をご覧頂きました。



小学生の子供たちに病院見学を行いました

8月6日(土)、ターナー会主催で行われた夏休み特別講習会『蝶を通して生き物のふしぎをみつけよう』に伊達市の小学生12名が参加致しました。北福島医療センター 副院長 志賀 隆医師を講師とし、たくさんの標本を見ながら、蝶の生態のしくみ、雄と雌では羽の色が違うこと、食べ物の違いで育つ環境が違うこと等をたくさん学習しました。

そして、講習会の最後として、「北福島医療センター院内見学」を行いました。診察室、病棟、手術室などを見て回り興味深そうにスタッフの説明を受けていました。

地域の子供たちに地域医療について関心を持ってもらう良い機会となった一日となりました。



救急救命士による気管挿管病院実習修了式を行いました

当センターは、平成18年より救急救命士による気管挿管病院実習を受入ております。これは、手術室内において全身麻酔時に救急救命士が気管挿管を30例行う実習です。今回は、安達地方広域行政組合 救急救命士 小沼 武義氏が平成28年4月11日～8月22日までに30症例を成功し、修了式を行いました。



「人間ドック健診情報管理指導士」を取得しました

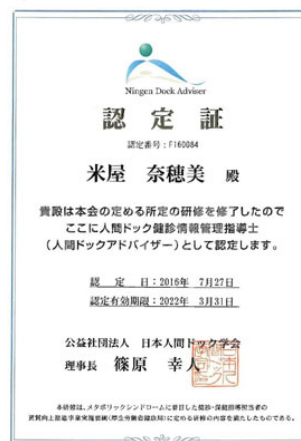
人間ドック健診情報管理指導士とは、通称「人間ドックアドバイザー」と呼ばれている専門資格で、日本人間ドック学会が、一般社団法人日本病院会の協力のもと認定を行っています。平成20年から生活習慣病の予防のために特定健診保健指導が実施されるようになったことから、被保険者や被扶養者に対し適切な特定保健指導を行うための専門家として認定された資格です。

認定の要件としては、医師、保健師、管理栄養士の資格を有する事であり、今回は保健師を取得されている「米屋奈穂美」さんが研修プログラムに参加致しました。プログラムでは、メタボリックシンドロームの概念や、喫煙・アルコールに関する保健指導など、特定保健指導に必要となる知識・技術を2日間にわたって学びました。

当センターは、年間100名の保健指導を行っています。初日に目標を設定し、半年間という期間の中で目標に向かって生活習慣の改善を行っていきます。これまで、多くの方々が食事や運動に気を付けながら目標設定した体重に到達し、健康の大切さを実感したとお話しされながら保健指導を終えられています。生活習慣や生活背景は個々で異なるため、一人ひとりの状況に合わせながらその人に合った情報提供や支援方法を考え、効果的な保健指導を行えるよう、取り組んでいます。また、一方的に話をするのではなく、対象者が主体となって自分の生活を見直し、考え、実行に移すというプロセスをととても大切にしています。

今年度の保健指導が始まって3か月が経ちますが、今年も保健指導を通してたくさんの方々が自身の生活と向き合い、行動し、笑顔で保健指導を修了出来るよう、懸命にサポートしていきたいと考えています。

(北福島医療センター 予防健診センター 保健師 米屋 奈穂美)



栄養科だより

8月30日 冷やし中華

8月30日に納涼膳を提供しました。

残暑厳しい毎日で、てんこ盛りのご飯やおかずは食べる気になれないとのご意見がありました。そこで、今回は冷やし中華・冷奴、ブロッコリーのフレッシュサラダ・スイカと爽やかな組み合わせの食事をお届けしました。適度な酸味の冷やし中華のたれが、食欲を刺激したよとお褒めの言葉・・・完食された患者様方から「とにかくさっぱりした」「病院で食べれると思っていなかった」と喜びの言葉をたくさん頂戴しました。



栄養相談教室開催のお知らせ

- *テーマ：「からだに良い果物の摂り方」
- *日 時：9月16日(金)14:30～
- *場 所：なごみ病棟(2F) 食堂
- *講 師：管理栄養士
果物の上手な摂り方についてお話致します。



●経営理念●

笑顔を咲かそう。

豊かな「人間性」と、高い「専門性」で、お客様と職員の「幸せ」という花を咲かそう。

●ブランドメッセージ●

皆様とともに

「仁泉会」は、多様な医療・介護施設を擁し、お客様の誕生から晩年までをサポートしている「公益財団法人」です。医療・介護分野としては、福島県第一号の認定であり、「地域への貢献」が評価され、信頼されている証です。私達は「豊かな人間性」と「高度な専門性」をさらに追求し、すべては、皆様の健康と幸せを創造するために、努力し続けます。

北福島医療センター 理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域に信頼される病院を目指します。

北福島医療センター 「リエゾン」編集係
TEL 551-0551 FAX 551-0808

E-mail jmo@jinsenkaï.or.jp
URL http://www.jinsenkaï.or.jp